

平成二十六年年度学位記授与式式辞

平成二十七年三月二十一日（金）
アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、石井知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、平成二十六年年度富山県立大学工学部・大学院工学研究科の学位記授与式を挙行できますことは、誠に喜びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育・研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられた工学部・大学院、計二百八十三名の卒業生・修了生の皆さん、本当におめでとうございます。また、ご家族の皆様には、お喜びも一入のことと存じます。

さて、皆さんは本学在学中に、多くの研鑽を積み、講義や実習、あるいは学位論文研究に取り組み、また、友人や教職員との交わりを通して、専門知識のみならず、物事を見通す目、考える力、専門分野において問題を捉え解決する手法、また、コミュニケーション力や、自己学習力など、エンジニア（engineer）やリサーチャー（researcher）として、必要な能力に加え、人生・社会を生きていく上で大切な様々な「力（ability）」を習得してきたと思います。

中でも、コミュニケーション力については、日本経済団体連合会（経団連）が会員企業に対して毎年実施しているアンケートにおいて、「採用時に最も重視する要素」として、十一年連続でトップとなっています。

皆さんのなかには、これから社会に出て活躍される方、また大学院に進んで、さらに勉学を深めようとする方がおられますが、いずれの道に進まれるにしても、これから、難しい仕事や難解な研究テーマなど、自分の力だけではとても解決できそうにない状況に遭遇することと思います。

そのようなときに、問題の解決に大きな力を与えてくれるのが、このコミュニケーション力であると思います。

コミュニケーション力をさらに高めるためには、様々な方法があると思いますが、ここで、その一つの方法を皆さんに申し上げたいと思います。

それは、「聞き上手になる」ということです。

昔から、「知らずば人に問え／問うは一時の恥、問わぬは末代の恥」と言われてきました。知らないことは積極的に質問するべきだという教えです。または、恥ずかしいから他人には聞けないという人への教えだと思います。

ところが、なんでもかんでもただ人に聞けば良いというものでもありません。私は、聞くには礼儀やルールというものが必要であると思います。疑問に思うことを丸投げするのではなく、書物でもインターネットでもいいですから、まず、自分で調べる努力をしたうえで、ほんとうにわからない疑問点を絞り込んだり、自分の考え方を整理した上で聞く、ということが必要です。「聞き上手」とは、「わからないことのポイント」を押さえた質問をして、相手から「よくぞ聞いてくれました」と言われることだと思います。

そのためには、明らかに専門でもない、または関係ない人に聞いても埒がきませんし、「忙しいから後にしろ」と言われたいようタイミングを計ることも大切です。上手に聞くためにも、日ごろから、良い意味で周囲の人を観察する習慣をつけていただきたいと思います。

このように、「わからないことのポイント」を明確にし、聞く人と時を選ぶ目を養うことこそが、コミュニケーション力の核心であると思います。

さらに、本日、卒業・修了される皆さんにとって、非常に厳しい言い方に聞こえるかもしれませんが、皆さんが四年乃至六年間の在学期間で学んだ知識は、数年のうちに時代遅れになってしまう可能性もあります。社会の第一線で活躍し続けて行くためには、本学キャンパスを離れた後も、絶えず学び続ける必要があります。そしてそれは自らが大学で選んだ研究分野とは異なるものかもしれません。しかし私は、皆さんが、本学での教育、研究で、学びの下地を十分に身に付けており、さらに「聞き上手」になることで、卒業後も学び続け、どんな環境にも対応できる人材となってくれるものと信じています。

もし、迷ったり悩んだりしたら、本学を思い出してください。そして、気軽に本学に立ち寄ってみてください。進化し続ける研究室を目の当たりにすれば、自分の立場を改めて認識できるはずです。私たちはいつでも歓迎します。

また、大学院に進学する皆さんには、国際性を備えることにも努力して欲しいと思います。現代の企業は県内、県外の別や、規模の大小を問わずグローバルな視点抜きには活動できません。国際性を有する人材への期待は今後ますます高まってまいります。

このため、研究成果を出した大学院生については、可能な限り、国際学会に参加させ、英語で発表する機会を与えるよう、私から全教員にお願いしていますので、自らの国際性を深めるチャンスが用意されています。皆さんには、このような絶好の機会を逃さないようにしていただきたいと思います。

さて、皆さんもご承知と思いますが、わが国の科学技術基本計画には、グリーンイノベーションとライフイノベーションが謳われています。これは今後のわが国の科学技術にとって、二酸化炭素の排出量を抑えた自然と調和した環境対応型技術の開発と、健康・医療・福祉など直接人間の命と幸福に貢献する技

術開発が、大きな課題であることを示しています。

皆さんが本学で学んできた機械、知能、情報、生物、環境に関する先端的技術がこれらの技術開発に関連してきます。皆さんの前途には、たくさんのやりがいのある、意義深い仕事があります。皆さんの将来は希望に満ちています。

富山県立大学は、この四月から公立大学法人へと移行しますが、地方創生の一翼を担い地域間競争を勝ち抜く魅力ある大学としてさらに発展、飛躍するよう、引き続き教職員や在学生が一丸となって取り組んでまいります。

卒業生の皆さんが、コミュニケーション力を持って、これからの仕事、勉学に取り組まれ、県立大学出身であることを誇りに、社会に貢献する立派なエンジニア（engineer）やリサーチャー（researcher）として、大きく、大きく成長されますよう心から祈念し、私の式辞といたします。

平成二十七年三月二十一日

富山県立大学 学長 石塚 勝